

【質問1】

- ①「寛永」、「慶安」は西暦でいうといつごろか。
- ②なぜ、その二種の本を比較したのか。
- ③出版物によって価格は変化したか。

【回答1】

- ①寛永本の出版された寛永十年は西暦1633年、慶安本の出版された慶安三年は1649年で、16年の開きがある。
- ②慶安本が寛永本を直接利用して作られていることが、当時の出版書肆の活動・本の作り方を示す事例として有効であると考えた。
- ③当時の本の価格については資料が少なく、はっきりしたことはわからない。

【質問2】

比較した二種の本で全く同一の版木が使われているということはないか。

【回答2】

全く同じということはない。二つの本で一見同じと思われる挿絵も、よく見ると少しずつ違いがある。寛永本を横に置いて挿絵や本文を作ったと思われる。

【質問3】

『とうだいき』以外の古浄瑠璃正本で諸本間の比較を行った場合に、今回の発表と異なる結論が導き出される可能性はあるか。

【回答3】

『せつきやうさんせう太夫』と慶安本の作られ方は似たような傾向にある。寛永頃の先行正本の本文を切り貼りして作られている点、それによってコストカットが図られている点がそれである。また、大体において古浄瑠璃正本では、省略本を作っていく傾向が見られるが、全ての作品においてそうであるとはいえない。